

▶台風12号が近づいています。来週、緊急下校もありえます。ご家庭の対応よろしくをお願いします。

全力投球



石部中学校学校通信 VOL.8 平成28年(2016年)9月2日

体育祭の取組、本格的に

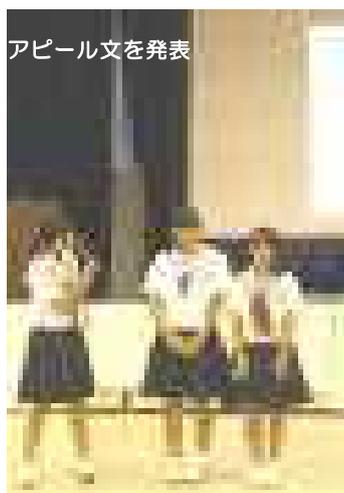


昨日は始業式。そして、午後は早速「全校アピール」の練習が始まりました。初日はリーダーの指示のもと、波を作るまでが課題でしたが、「体育祭を自分たちの力で創り上げよう」という意気込みが伝わってくるスタートとなりました。

【保護者のみなさまへ】

熱中症予防のため、水分補給のために十分なお茶を持たせるとともに、着替えの準備もよろしくをお願いします。

市いじめをなくそうサミット、県いじめ問題生徒会サミット



アピール文を発表

夏休みの成果報告、続報です。8月3日に開催された市のサミットに参加してくれたのは、2年生の3名の生徒です。「あなたならどうする？」と問いかける寸劇を見て、いじめをなくしていくために、一人ひとりがどうすればいいかを考えてくれました。そのワークショップで確認したのは、いじめを「周りで見ている人」が変わらないと何も変わっていかないということでした。

そして、それを受けて、3人が考えたのが次のアピール文です。

～ 見てるだけじゃかわらない 思っているだけじゃ伝わらない ～

- ・他人ごとと思わないでみんなで解決しよう。
- ・自分の想いを言葉にして伝えよう。
- ・『いじめ=あかんやん』と言える心を共有しよう。

参加した生徒はこの想いを大切に、生徒会長とともに、8月22日の県のサミットに参加してくれました。こちらは、県内様々な地域の中学校で展開されている「いじめをなくす生徒会の取組」の交流会でした。二人は、持ち時間の前半を市サミットの報告、後半を石部中の日常的取組の報告にあて、私たちが「あいさつ」や「仲間づくり」を大切にしていることを堂々と発表してくれました。そして、こちらのサミットでは「いじめをなくす3か条」がまとめられました。

「幸せ=ありがたい」「いじめ=0」 そんな公式を生むのは、私たち
重い槍をさすのではなく、思いやりを与えよう

SNS Smile New friend Stop いじめ

代表の人たちがいくらよい話し合いをしてくれても、石中生全員が実行できなければ何もなりません。一人ひとりが自分のやるべきことを果たし、体育祭等でも日常においても、居心地のよい学校を創っていきましょう。 (校長)



他校生徒会の人たちと

三年間のボランティア活動

湖南市立石部中学校 三年

「ちょっと面倒だなあ」

正直に言うと最初はそう思いました。「老人福祉センターまつり」に参加してみないかという呼びかけがあった時のことです。友だちが行ってみようかと誘ってくれなければ私は知らん顔を決め込んでいたでしょう。中一の五月、しっかり作業ができるだろうか、うまく人と会話できるだろうか、私は不安な気持ちでいっぱいでした。

私が住む石部の町は地域とのふれあいの機会がとても多い町です。にもかかわらず、私が進んで参加しようと思ったことはありませんでした。だから余計に面倒だなあと感じ、気乗りしなかったのです。そんな私を「参加してくれてありがとう」「頑張ってるね」と笑顔で迎えてくださったのは地域のみなさんでした。その笑顔をきっかけにボランティア活動に対する私の考えは変わっていききました。実際に体験してみると、地域の方とお話をする、一緒に作業することがとても新鮮に感じられたのです。

三年目を迎えた今年、私はポストカードやぬり絵のコーナーで作り方を説明したり自分も一緒に制作したりしていました。するとお年寄りの一人の方が、

「あなた中学生？ ありがとね。こんなことをするの久しぶりやから教えてくれる？」と笑いながら話しかけてくださったのです。その方は見たことも話したこともない方でした。どう接したらいいのかな。最初は戸惑いましたが、この会話をきっかけにいろいろな話に発展していきました。また、違う作業で失敗してしまった私に対して「大丈夫、大丈夫。」と言ってくださった方、「ありがとう。」と声をかけてくださる方がいて、とても救われた気持ちになりました。そして、改めて石部って温かい町だなあと感じ、誰もが仲良くなれる町なんだと感じたのです。

あいさつと言えば、こんなこともありました。それは玄関で靴袋を渡していた時のことです。何の不思議もない感じで「おはよう」「こんにちは」という声をかけてくださるみなさん。それに応えて私の「こんにちは」もしだいに大きな声になっていきました。初対面の方でもあいさつ一つ交わすだけで、ぐっと距離が近くなるんだ、そんなことを実感した瞬間でした。この出来事から、もっともっと自分からあいさつをして地域の方々と接していこうと思うようになり、私は町で人とすれ違うたび、自然と「こんにちは」が言えるようになりました。

「情けは人のためならず」ということわざがあります。ボランティアはまさにこのことわざではないでしょうか。

私にとっては、地域のことをいろいろと知ることができ、自分を成長させることのできた、とても実のある活動だったからです。初めてのボランティア活動で「やらされている」と感じた中一の時の私はもういません。地域の良さを感じ、地域の方と仲良くなっていつの間にか自然な気持ちで「続けてみよう。やりたい！」と言える私に変わっていました。いつもお世話になっている方々に少しでも恩返しができたらと思うようになったのも、ごく自然なことでした。

「三年間ありがとう」

一通りの仕事を終えた後、私たちは地域の方々にそう言葉をかけていただきました。

いいえ、その言葉を言うのは私からです。このの経験を生かし、これからも人の役に立てる様々な活動に自分から参加していきます。

「三年間ありがとうございました。」



※前号の夏休みの記録に漏れがありました。おわびするとともに、改めてお知らせします。

陸上(県大会) 男子100m 11"45 5位

女子低学年リレー 54"42 7位

バスケットボール敢闘賞